

筑豊の炭住の子どもたちの
現実を前に

一九六〇年代の学生たちは
何を考えたか――

国のエネルギー政策に翻弄され、

大量の失業者があふれていた、一九六〇年の筑豊。

労働運動が激化するいっぽうで、中小炭鉱の労働者は

よるべとなる組合もなく、職を失い文字どおり貧困にあえいでいた。

このころ日米安保条約改定に対し、反対運動が激しく闘われていたが、

学生たちは、日米安保反対運動の声も届かない、筑豊の過酷な現実直面する。

「必要なは物資ではなく、人だ」と確信して、キャラバン隊を組み、炭鉱住宅に入り込み、

子どもたちと触れあうなかで、何が問題なのかを考え、論じ合った学生たち。

勉強会やハイキング、人形劇から始まり、文庫作り、地元の青年との起業、

就職の世話まで、子どもたちと関わり続けた、学生たちの活動の記録。

二一世紀にまた浮かび上がってきた貧困という問題に、

社会が、人が、何ができるのかを問いかける資料集！



上：第2回キャラバン（上山田・1961年）／下：福吉坑事務所跡にできた子ども文庫（1961年）

「筑豊の子供を守る会」

編集復刻版

関係資料集成

全8巻

●揃定価 160,000円＋税（税込176,000円）

●配本 全2回配本

●編 『「筑豊の子供を守る会」関係資料集成』編集委員会

●解説 細井勇・鬼塚香

六花出版

筑豊キリスト教連合救援委員会報告

石炭産業の合理化と人員整理の進行によって 失業と困窮にあえぐ 筑豊のひとたちの 暮らしの分析と救援のアピール



【要約】 筑豊地区の炭坑閉山の被害状況を調査し、その影響を分析し、救援活動の必要性を訴えている。...

この報告は、筑豊地区の炭坑閉山による失業と困窮の現状を分析し、その影響を述べ、救援活動の必要性を訴えている。報告は、失業と困窮の現状、その原因、そして救援活動の必要性について詳しく述べている。

筑豊キリスト教連合救援委員会報告 1960年4月15日

国際キリスト教大学チームレポート

筑豊児童救援キャラバン (ICU責任者として) 松井 亮輔

その中、国会では、安政決定をめぐり、各野党の対立が深刻化し、3月10日には、自由党が安全保障法的に議決権を失ったことになった。...

このレポートは、国際キリスト教大学チームによる筑豊児童救援キャラバンの様子や、当時の政治情勢について述べている。

筑豊炭田学生キャラバン報告書 1960年 1960年10月20日

荒廃と寂寥と困窮の なかにとりのこされている 筑豊の山の子ども たちが

夏季奉仕キャラバン【補導と給食】の 來援をまちわびている——



この写真は、山の子どもの生活を写している。彼らは荒廃した環境の中で生活している。...

このページは、筑豊の山の子どもの現状と、夏季奉仕キャラバンの活動について述べている。写真には、山の子どもの様子や、ボランティアの活動の様子が写っている。

筑豊キリスト教連合救援委員会 1960年5月15日

筑豊の変革

新しい人柄づくりの道標

56年4月1日
発行責任者 船戸良隆
編集責任者 松村一重
三曙書大 1500

この雑誌は、筑豊の現状と変革の道標を示している。...

「さきやま」は、筑豊の子供を守る会機関誌。この雑誌には、筑豊の現状や、変革の道標について詳しく述べている。

筑豊の子供を守る会機関誌「さきやま」第1号 1961年4月1日

刊行にあたって

ここに、約五〇年間の沈黙を破って編集復刻版『筑豊の子供を守る会』関係資料集成』が刊行されることになった。

「筑豊の子供を守る会」とは、一九六〇年に筑豊の炭坑閉山期に起こったキリスト教学生運動である。政府のエネルギー政策の転換によって、筑豊の中小炭鉱の閉山が集中したのは一九五九年であった。福岡県では「黒い羽根運動」が起こり、日本キリスト教奉仕団による救援活動がそこに合流した。街頭に立ち、募金を集めた東京神学大学の学生の一人が、一九六〇年三月、その救援活動に参加する形で初めて筑豊を訪問した。彼は筑豊が必要としているのは、物ではなく人である、と実感し、ミッション系の大学の働きかけ、これにこたえていた炭鉱住宅で救援活動を担ったのである。

これを機に、参加した学生たちは「筑豊の子供を守る会」を起こし、夏季キャラバンの活動を継続していった。二年目からは関西の大学も加わり、子ども会活動を中心としていった。子どもたちと一緒に学び遊ぶだけでなく、文通を継続し、県外就職者の仲間づくりも支援するようになった。また、地元青年会や婦人会と交流し、地域づくりに向け議論を重ねていった。

「守る会」の活動した一九六〇年代は、日本は政治的な激動の時代であった。筑豊は日本が高度経済成長へと向かう中で、巨大な失業地帯へと劇的に変貌し、生活保護制度に地域的に依存していった。「守る会」に参加した学生たちは、日本社会の在り方への疑問を深め、キリスト教主義に基づく奉仕活動への限界をも感じていったのである。

本資料集成に収められた記録から、彼ら彼女らが直面した困難さ、葛藤、議論の経過が蘇ってこよう。

『筑豊の子供を守る会』関係資料集成』編集委員会

関連年表

年	月	夏
1959年4月	8月	福岡県知事選で鶴崎多一革新県政が誕生
1960年1月	3月	福岡県、黒い羽根運動を開始。日本キリスト教奉仕団によるミルク給食などの救援活動が黒い羽根運動に加わる
1961年2月	3月	東京神学大学の学生船戸良隆が筑豊を初めて訪問
1962年秋	4月	岸首相訪米、新日米安全保障条約、調印。反対運動高まる
1963年4月	5月	筑豊の地元教会で結成した「筑豊キリスト教連合会救援委員会」の要請にに応じる形で、船戸がミッション系大学に働きかけ、東京神学大学、立教大学、国際基督教大学、明治学院大学の学生56人が3週間、キャラバン活動連絡委員会を開催し、「筑豊の子供を守る会」と名称を決めて、夏季キャラバンを継続することを決定
1964年4月	4月	「筑豊の子供を守る会」の機関誌として「さきやま」を創刊
1965年4月	4月	夏季キャラバンに、同志社大学、関西学院大学、青山学院大学、熊本大学のチームが加わる
1966年3月	3月	船戸、犬養光博、松崎一、服部清志の4名で「筑豊キリスト者兄弟団」を構想
1967年3月	3月	大養と松崎、前年から1年間滞っていた船戸に代わって福吉炭住での1年間滞を開始。「筑豊キリスト者兄弟団」として「週刊福音」を創刊
1968年4月	4月	犬養と松崎、前年から1年間滞っていた船戸に代わって福吉炭住での1年間滞を開始。「筑豊キリスト者兄弟団」として「週刊福音」を創刊
1969年4月	4月	大之浦教会(のちの宮田教会)牧師服部田次郎、筑豊の教団系4教会で「筑豊協力伝道奉仕会」を結成。同時に「鞍手友愛更生会」を組織
1971年	4月	服部田次郎、「炭鉱犠牲者復権の塔建設協力会」を立ち上げ、「復権の塔」を創刊
1971年6月	6月	福岡県知事選で亀井光保守県政が誕生
1972年	6月	犬養、福吉炭住に福音伝道所を開設。「筑豊キリスト者兄弟団」を解散、「週刊福音」を廃刊とし、「月刊福音」を創刊
1973年	7月	犬養、福吉炭住に福音伝道所を開設。「筑豊キリスト者兄弟団」を解散、「週刊福音」を廃刊とし、「月刊福音」を創刊
1974年	7月	犬養、福吉炭住に福音伝道所を開設。「筑豊キリスト者兄弟団」を解散、「週刊福音」を廃刊とし、「月刊福音」を創刊
1975年	7月	犬養、福吉炭住に福音伝道所を開設。「筑豊キリスト者兄弟団」を解散、「週刊福音」を廃刊とし、「月刊福音」を創刊
1976年	7月	犬養、福吉炭住に福音伝道所を開設。「筑豊キリスト者兄弟団」を解散、「週刊福音」を廃刊とし、「月刊福音」を創刊
1977年	7月	犬養、福吉炭住に福音伝道所を開設。「筑豊キリスト者兄弟団」を解散、「週刊福音」を廃刊とし、「月刊福音」を創刊
1978年	7月	犬養、福吉炭住に福音伝道所を開設。「筑豊キリスト者兄弟団」を解散、「週刊福音」を廃刊とし、「月刊福音」を創刊
1979年	7月	犬養、福吉炭住に福音伝道所を開設。「筑豊キリスト者兄弟団」を解散、「週刊福音」を廃刊とし、「月刊福音」を創刊
1980年	7月	犬養、福吉炭住に福音伝道所を開設。「筑豊キリスト者兄弟団」を解散、「週刊福音」を廃刊とし、「月刊福音」を創刊

第1巻 筑豊の子供を守る会I

- 石炭産業の合理化と人員整理の進行によって失業と困窮にあえぐ筑豊のひとたちの暮らしの分析と救援のアツピール●筑豊キリスト教連合救援委員会●一九六〇・四
- 荒廃と寂寥と困窮のなかにとりのこされている筑豊の山の子どもたちが夏季奉仕キャラバン「補導と給食」の来援をまわびびている●筑豊キリスト教連合救援委員会●一九六〇・五
- 筑豊キリスト教連合 炭鉱離職者救済会計物資配分報告●筑豊児童救済キャラバン会計●一九六〇・八
- 筑豊炭田学生キャラバン報告書1960年●筑豊キリスト教連合救援委員会●一九六〇・一〇
- 写真集 筑豊の子どもたち●一九六〇
- 〔アルバム 筑豊キャラバン〕●一九六一
- 〔アルバム 筑豊キャラバン〕●一九六三
- さきやま▼第1号●筑豊の子供を守る会●一九六一・四
- さきやま▼第2号●筑豊の子供を守る会●一九六一・六
- さきやま▼第3号●筑豊の子供を守る会●一九六一・二二
- さきやま▼第4号●筑豊の子供を守る会●一九六一・二五
- さきやま▼特集号―夏季キャラバン報告集●筑豊の子供を守る会●一九六一・二二
- さきやま▼第6号●筑豊の子供を守る会●一九六三・四
- さきやま▼第7号●筑豊の子供を守る会●一九六三・五
- さきやま▼第8号●筑豊の子供を守る会●一九六三・七
- さきやま▼第9号●筑豊の子供を守る会●一九六三・一〇
- さきやま▼第10号●特集号 夏季キャラバン報告集●筑豊の子供を守る会●一九六三・一一
- さきやま▼第11号●筑豊の子供を守る会●一九六四・六
- さきやま▼第12号●筑豊の子供を守る会●一九六四・七
- さきやま▼第13号●64夏季キャラバン報告●筑豊の子供を守る会●一九六五・四
- さきやま▼第14号●筑豊の子供を守る会●一九六五・六
- さきやま▼第15号●筑豊の子供を守る会●一九六五・七
- さきやま▼第16号●筑豊の子供を守る会●一九六五・一一
- さきやま▼第17号●筑豊の子供を守る会●一九六六・三

11月22・23日 全国常任委員会 報告●筑豊の子供を守る会●一九六五・一一

- 1965 筑豊第1号●筑豊の子供を守る会中央委員会●一九六五・二二
- 筑豊の子供を守る会 東京地区全体協議会 内面的・心的探究としての綱領を中心とした勉強会●一九六四・二二
- 筑豊の子供を守る会 東京地区全体協議会プログラム●一九六四・二二
- 昭和39年筑豊の子供を守る会 東京地区常任委員会活動報告●一九六五・三
- 神学大学・東洋英和短大チーム／東京女子大チーム(神大混成)●筑豊キャラバン報告●筑豊の子供を守る会 神学大学／東洋英和短大／東京女子大●一九六一・八
- 坑木▼創刊号 夏季キャラバン報告●筑豊の子供を守る会 東京神学大学／東京女子大チーム●一九六三・一一
- ポタ山●東洋英和女学院短期大学 筑豊の子供を守る会●一九六三・一一
- 1964 夏季(カキ)キャラバン HANDBOOK(ハンドブック)●筑豊の子供を守る会 東京神学大学／東京女子大チーム●一九六四・七



- さきやま▼第18号●筑豊の子供を守る会●一九六六・六
- さきやま▼第19号●筑豊の子供を守る会●一九六六・七
- さきやま▼第20号●筑豊の子供を守る会●一九六六・一一
- ぼた山のごども その生活と記録●筑豊の子供を守る会●一九六一・一一
- 筑豊 炭坑の子供達へ愛の手を!! 学生キャラバン派遣資金募集のおねがい●筑豊の子供を守る会／筑豊キリスト教連合救援委員会●一九六〇・七
- 筑豊のごどもたちに文庫をおくろう!●筑豊の子供を守る会●一九六〇・一一
- 募金のお願ひ 地元民とわれわれの手で子供たちに集会所を!!●筑豊の子供を守る会●一九六一・一一
- 集会所建設の御協力に感謝して●筑豊の子供を守る会●一九六三・五
- 募金のお願ひ 筑豊の子供達の心に灯を! 閉山相つぐ悲劇の地へ、学生キャラバンを送る為に●筑豊の子供を守る会●一九六三・五
- 募金のお願ひ みなさんの手で筑豊閉山地区に集会所を!!●筑豊の子供を守る会●一九六三・一一
- 生活保護者の子弟も高校へ! 支部総会で奨学金制度をつくる決議をするまでの経過●福岡支部奨学金実行委員会●一九六四・五
- 筑豊の子供を守る会募金趣意書●一九六四
- 生活保護者の子弟も高校へ! 「筑豊奨学会」設立のための募金趣意書●筑豊の子供を守る会●一九六五
- 生活保護者の子弟も高校へ! 『この子らを守ろう』●筑豊の子供を守る会●一九六五
- 奨学金制度設立のための資料No.1●福岡支部奨学金設立実行委員会●一九六五
- 奨学金制度設立のための資料No.2●奨学金実行委員会●一九六五・一一
- 奨学金制度設立について 福岡支部実行委員会資料No.1、No.2のまとめ●東大・神大チーム●一九六五・一一
- 筑豊の子供を守る会 規約(草案)●一九六二
- 綱領草案●筑豊の子供を守る会●一九六二
- 筑豊の子供を守る会 綱領(原案)●一九六三・二二
- 筑豊の子供を守る会 綱領(綱領解釈)●一九六四
- 筑豊の子供を守る会 規約修正案●一九六五

第3巻 筑豊の子供を守る会III

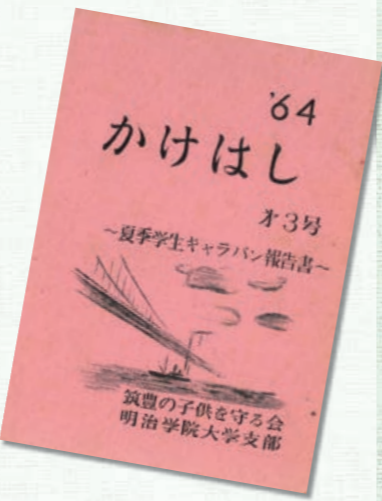
- 不況下の筑豊●立教大学筑豊児童救済キャラバン隊編●一九六〇・二二
- 筑豊 立教キャラバンBチーム1961.7.29～8.13●筑豊の子供を守る会●立教大学Y.M.C.A.●一九六一・七
- 立教大学Bチーム 筑豊キャラバン報告●筑豊の子供を守る会●立教大学Bチーム●一九六一・一〇
- きりは▼夏季キャラバン報告●筑豊の子供を守る会 立教支部●一九六二・二二
- きりは▼夏季キャラバン報告 昭和38年度●筑豊の子供を守る会 立教支部●一九六三・一〇
- St.Paul's Univ HANDBOOK●筑豊の子供を守る会 立教チーム●一九六四・八
- きりは▼夏季キャラバン報告●立教筑豊の子供を守る会●一九六四・一〇
- 夏季活動の報告書 筑豊からのレポート●国際基督教大学 筑豊の子供を守る会●一九六四・一
- ちくほう▼創刊号●筑豊の子供を守る会●一九六四・六
- 合宿討議資料●筑豊の子供を守る会●一九六五・一
- 学生キャラバン実践予定表●筑豊の子供を守る会 明治学院大学チーム●一九六二・七
- 62夏季学生奉仕キャラバン隊員手記 歴史をきかず 閉山炭坑地域活動の課題●筑豊の子供を守る会 明治学院大学支部●一九六二・二二

第2巻 筑豊の子供を守る会II

- 夏季学生キャラバン活動 趣意書●筑豊の子供を守る会常任委員会●一九六二・七
- 62年度 学生奉仕キャラバン会計報告●筑豊の子供を守る会●一九六二・一一
- ごあいさつ(1964年夏季キャラバン活動計画のあいさつ)●筑豊の子供を守る会●一九六四・七
- 1964年度前期活動経過報告等●筑豊の子供を守る会●一九六四・一一
- 混成チーム活動要綱●筑豊の子供を守る会 福岡県支部●一九六四・一一
- 1964年度第一次混成チームによる活動に関するメンバーレポート 聖・関合同総括会議資料●筑豊の子供を守る会●一九六五・一
- 筑豊の子供を守る会資料●中央委員会事務局●一九六五・五
- 筑豊の子供を守る会 過去5ヶ年活動地(閉山炭坑地域を中心として)●一九六五
- 〔所蔵資料リスト〕●立教大学Y.M.C.A. 筑豊の子供を守る会●一九六六・五
- PROBLEMS OF CHIKUHO●一九六五
- 家庭訪問要領●筑豊の子供を守る会●一九六五
- 少年グループの□□□ 指導心得●一九六五
- 〔子供の就職先待遇調査〕●一九六五
- 筑豊の子供を守る会 全国委員会報告 議事録より●一九六三
- 全国委員会 プログラムと議題について●筑豊の子供を守る会●一九六三・一一
- 筑豊の子供を守る会 全国常任委員会 報告書●一九六三・一一
- 筑豊の子供を守る会 全国常任委員会 決議事項●一九六四・五
- 筑豊の子供を守る会 全国常任委員会 書記録(全国協議会を兼ねて)●一九六四・一一
- 筑豊の子供を守る会 全国常任委員会 書記録(全国協議会を兼ねて)●一九六四・一一
- 筑豊の子供を守る会 全国常任委員会●一九六五・四
- 全国常任委員会 報告●筑豊の子供を守る会●一九六五・五
- 中央委員会 所信表明●筑豊の子供を守る会●一九六五

坑木▼第2号 64夏季キャラバン報告●筑豊の子供を守る会 東京神学大学／東京女子大チーム●一九六四・一一

- 夏季キャラバン報告●筑豊の子供を守る会 東京神学大学／東洋英和女学院短期大学チーム●一九六四・一一
- 東洋英和女学院短期大学／東京神学大学混成チーム 昭和四十年年度計画●筑豊の子供を守る会 東洋英和女学院短期大学／東京神学大学チーム●一九六五・四
- 筑豊における実践と学習―64年度活動の総括と65年度活動の展望●筑豊の子供を守る会 東洋英和女学院短期大学／東京神学大学チーム●一九六五・四
- ちくほう―その忘れられた現実●東京女子大 筑豊の子供を守る会●一九六五・一一
- 坑木▼第3号 65 筑豊の子供を守る会 東京神学大学／東京女子大チーム●一九六五・一一



- かけ橋▼第2号―夏季学生キャラバン報告書●筑豊の子供を守る会 明治学院大学支部●一九六三・二二
- かけはし▼第3号―夏季学生キャラバン報告書●筑豊の子供を守る会 明治学院大学支部●一九六四・一一
- キャラバン新聞▼第2号●一九六三・八
- キャラバン新聞▼第3号●一九六三・八
- キャラバン新聞▼第4号●一九六三・八
- キャラバン新聞▼第5号●一九六三・八
- キャラバン新聞▼第6号●一九六三・八
- キャラバン新聞▼最終号●一九六三・八
- 現状把握●筑豊の子供を守る会 同志社大学支部●一九六四・五
- 趣意書 筑豊閉山炭坑の子供たちに!!―募金のおねがい●筑豊の子供を守る会 同志社大学支部・梅花女子大学支部●一九六四・六
- 趣意書 筑豊の子供達に希望の光を! 募金のおねがい●梅花女子大学Y.M.C.A. 筑豊の子供を守る会●一九六四・六
- 活動計画書●筑豊の子供を守る会 同志社大学支部 梅花女子大学支部●一九六四・七
- 1964年度 筑豊キャラバン報告書 『我々の姿』としての筑豊 筑豊の問題点を求めて●同志社大学・梅花女子大学 筑豊の子供を守る会●一九六五・二二

第4巻 筑豊の子供を守る会IV

- ぼた山のかげに▼第二集●筑豊の子供を守る会 関西学院大学支部・聖和女子短期大学支部混成キャラバン隊●一九六二・二二
- ぼた山のかげに▼第三集●筑豊の子供を守る会 関西学院大学・聖和女子短期大学混成キャラバン隊●一九六三・一一

筑豊の子どもたちの友として

岩田正美 ● 日本女子大学名誉教授

「子ども」の貧困」という言葉がよく聞かれる。政府もこの政策に力を入れ、民間でも「子ども食堂」などがブームである。とはいえ相対所得貧困率をベースとした問題提供のせい、そのイメージははつきりしていない。これに対して、「貧困地区」の子どもたちの具体的な問題と向き合った多様な活動の歴史がある。戸籍さえなく、学校は長期欠席になるような子どもたちの就籍、就学運動、勉強会、子ども会などである。二期、大学のセツルメント活動も盛んに行われた。だが、それらの記録は十分残っていない。

本資料集成は、高度経済成長へ向かう日本によって切り捨てられ、閉山後も炭鉱住宅に「残留」を余儀なくされていた炭鉱労働者家族の貧困と向き合った、キリスト教系大学の学生らによる「筑豊の子供を守る会」の記録を中心にしたものである。

この会の主体は、東京や関西の複数のキリスト教系大学の学生であり、「キリスト者としての奉仕」と「社会問題の解決や体制変革」の間での葛藤を抱えつつ、子どもたちの友として夏のキャラバン活動に取り組み、また独自にその活動の場や方法を模索していった。会は一九六七年で解散となるが、筑豊地区へ常駐しての活動や、就職した子どもたちとのつながりを維持しようとした活動も生み出していった。また大都市部の大学生の目に、筑豊の貧困がどう映ったかも興味深い。あわせて福祉事務所の記録も収録されているのもありがたい。(いわた・まさみ)



1960年夏、第1回キャラバン。東京神学大・東京女子大・青山学院大合同チームが福吉地区に



1959年12月、東京・吉祥寺駅での街頭募金(東京神学大学学生と日本キリスト教奉仕団)

この資料集成から次の人材が育つ

大友信勝 ● 聖隷クリストファー大学教授

「筑豊の子供を守る会」の活動が「資料集成」として出版される。我が国の高度経済成長はエネルギー革命が背後にあり「石炭から石油へ」の政策転換が行われる。そのフィードルの中心は筑豊であり、一九五〇年代半ば前後から一九六〇年代に展開される。炭鉱は会社、従業員共に縦系列になつており、住まいも炭住から購買に至るまで共同性で成り立っている。中小・零細の炭鉱ほど、労働組合もなく、閉山の影響は生活を直撃し、わけても、最も弱い立場にある子どもにも欠食、学習環境の問題として矛盾が表面化する。

日本キリスト教奉仕団の救援活動からミッション系学生による「筑豊の子供を守る会」がキャラバンを組み、子ども会活動を展開する。福音的な奉仕活動か、社会問題を探索し改善する活動か。子どもたちの心に夢と希望を、高校に行ける奨学金を、学習できる集会所を、と学生たちの実践と理論は現場から鍛えられていく。

閉山の拡がりの中で「追われゆく坑夫たち」(上野英信・岩波新書)は学生たちの社会(ヤマ)を観る目を育てた。「守る会」の機関誌、活動報告、募金のお願ひ、等は現代史を学ぶ「資料集成」として輝きを放つていくことであろう。「筑豊の子供を守る会」から多くの人材が社会に送り出され、今「資料集成」から今後を担う人材が出てくる。広く活用されることを願っている。(おおとも・のぶかつ)

「筑豊の子どもたち」に光をあてた画期的な歴史資料集

木原活信 ● 同志社大学教授

これまであまり顧みられることのなかった一九六〇年代の「筑豊の子供を守る会」という組織に焦点をあてた全8巻からなる資料集成である。産業構造の変革により、炭鉱閉山に追い込まれた筑豊地区の生活困窮、貧困問題は、日本の資本主義の影の部分であった。この窮乏に全国のキリスト教主義の大学生たちが筑豊へやってきて支援の輪を広げていくが、その当時の散逸していた貴重な資料がここに収集されている。

ところで、この炭鉱の町の筑豊は私が高校までを過ごした故郷であり、またキリスト教信仰は自らの原点である。その意味では、この資料集は筑豊とキリスト教を結んでいるユニークさゆえに、個人的に画期的な資料集であるの言うまでもないが、社会福祉学全体、キリスト教史、筑豊の歴史を知ろうとしても類をみない稀少価値のある資料集である。

フーコーによれば、権力をもたない人々の言説は周辺に追いやられると言うが、それを支援するボランティアな草の根的な運動も時間と共に忘れ去られ、結局、権力をもつ側の為政者の物語(歴史)のみが語られ、権力をもたない物語やそれを支える市民運動はやがて消え去ってしまう悲しい運命にある。今回、敬愛する細井勇教授と六花出版のご尽力により、このような形で公に資料集として刊行できたことは筑豊出身の研究者の一人として望外の喜びであるとともに、この珠玉の資料集を関係者が活用して、研究を深化させていくことを期待したい。(きはら・かつのぶ)



子ども会結成。福吉にて。1963年5月



東京神学大学3年生全員が協力して4日間で10万円の募金を集めた



図画作品展。第4回キャラバン、上山田市木城坑にて。1963年8月

福吉子ども文庫の前で。子どもたちと梅光女学院の高校生たちと



筑豊の子どもたちは親に代わってよく働く



福吉青年団のメンバーたち



ぼた山のかげに▼第四集●筑豊の子供を守る会 関西学院大学 聖和女子短期大学混成キヤラバン隊●一九六四・二二

ぼた山のかげに▼第五集●筑豊の子供を守る会 関西学院大学・聖和女子短期大学混成キヤラバン隊●一九六六・二二

月刊筑豊▼No.1●筑豊の子供を守る会 ガンパッテル会●一九六四・二二

月刊筑豊▼No.2●筑豊の子供を守る会 関字聖和ガンパッテル会●一九六五・一

月刊筑豊▼8月号●ガンパッテル会●一九六五・八

ポタヤマ 筑豊キヤラバン 青山学院チーム報告書●青山学院大学●一九六二・二二

笹原キヤラバン新聞▼創刊号●青山学院大学 筑豊の子供を守る会●一九六五・七

筑豊●青山学院大学基督教青年会社会奉仕部 筑豊の子供を守る会●一九六五・一〇

社会奉仕部 筑豊の子供を守る会●一九六七・五

「守る会」全国組織崩壊の意味するもの●杉山憲司●一九六七・六



この少年に愛の手を!! 筑豊に悩める内反足の忠喜君

●熊本大学キリスト教青年会 花陵会●一九六二・一〇

筑豊からのレポート③●熊本大学学生基督教青年会 花陵会●一九六四・一

筑豊からのレポート④●筑豊の子供を守る会 熊本大学支部●一九六六・一

筑豊●筑豊の子供を守る会 九州ブロック委員会●一九六三

月刊筑豊▼創刊号●筑豊子供を守る会 九大支部●一九六三・二二

月刊筑豊▼第2号●筑豊子供を守る会 九大支部●一九六四・一

月刊筑豊▼第3号●筑豊子供を守る会 九大支部●一九六四・二

月刊筑豊▼第4号●筑豊子供を守る会 九大支部●一九六四・五

月刊筑豊▼夏季キヤラバン特集号●福岡大学/九州大学/福岡女子大学/西南短大児童教育科●一九六四

第4次春季キヤラバン隊員募集要綱●筑豊の子供を守る会福岡支部●一九六五・二二

第5巻 福吉炭住での活動

〔アルバム 福吉〕●一九六二

〔アルバム 福吉〕●一九六三

福吉のこどもたち わたしたちの文集●一九六一・八

福吉の子供2●福吉子供会●一九六二・八

ソロバン塾開催について●福吉子供会 同育成会●一九六二・九

福吉青年団規約●福吉青年団●一九六三・一

福吉の紹介●筑豊キリスト者兄弟団●一九六三・八

日本基督教団 九州教区常置委員会への建議案〔筑豊の子供を守る会〕●一九六二・二二

週刊福吉▼No.61●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・八

週刊福吉▼第66号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・一〇

福吉地区生活実態調査表 調査年月日1963.12.1~64.1.1●一九六三・二二

ごあいさつ●筑豊キリスト者兄弟団●一九六三・四

再び筑豊に愛の手を!! 離職者による共同養鶏計画 趣意書●筑豊キリスト者兄弟団●一九六三・七

青年共同養鶏 筑豊兄弟社のしおり●筑豊兄弟社/筑豊キリスト者兄弟団●一九六三・八

募金願い―五九万五千円 趣意書●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・二二

閉山炭住の中での新しい伝道と奉仕の試み●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・二二

我々の試み―筑豊キリスト者兄弟団 養鶏事業の経過と展望●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・二二

昭和三十九年度 閉山炭住の中での新しい伝道と奉仕の試み(Ⅱ)●筑豊キリスト者兄弟団●一九六五・三

筑豊での働き―福吉伝道所の歩み●日本基督教団西片町教会青年会●一九六七・二二

筑豊底辺のくらしとその背景―筑豊を被う「生活保護体制」大藪光博●一九七三・二二

福吉伝道所とわたし―30年のあゆみ●編集:三十周年記念誌編集委員会 発行:日本基督教団福吉伝道所●一九九五・四

第6巻 鞍手地区での活動 筑豊協力伝道奉仕会/復権の塔I

友愛更生会設立趣意書●鞍手友愛更生会●一九六三・五

筑豊の現状と友愛更生会について●一九六三・五

昭和38年度友愛更生会活動状況報告●鞍手友愛更生会●一九六四・三

七ヶ谷「集会所」建設募金趣意書●七ヶ谷集会所建設実行委員会●一九六三・二二

鞍手児童センター広報▼第1号●一九六四・四

ともしび▼第1号●服部清志●一九六六・六

ともしび▼第2号●服部清志●一九六六・七

ともしび▼第3号●服部清志●一九六六・九

ともしび▼第4号●服部清志●一九六六・一〇

底流▼第1号●服部清志●一九七〇・一



底流▼第1号●服部清志●一九七〇・二

筑豊▼創刊号●筑豊協力伝道奉仕会●一九六三・五

筑豊▼第1号●筑豊協力伝道奉仕会●一九六九・四

筑豊▼第2号●筑豊協力伝道奉仕会●一九七〇・五

筑豊▼第3号●筑豊協力伝道奉仕会●一九七〇・七

筑豊▼第4号●筑豊協力伝道奉仕会●一九七二・八

筑豊▼第5号●筑豊協力伝道奉仕会●一九七五・三

筑豊▼第6号(再刊第1号)●筑豊協力伝道奉仕会●一九九三・六

筑豊―これだよいのか?第1号●ボタの会●一九六七・一

礦山地区に於ける傳道の実際と方策●服部団次郎●一九五二・二二

筑豊の閉山社会―その実態と問題点●服部団次郎/発行:鞍手友愛更生会●一九六五・七

福岡イエス会22年の歩み(奨学資金と伝道資金の会計報告を通して)●福岡イエス会奨学資金委員会●一九八七・一〇

第7巻 復権の塔II

炭鉱犠牲者「復権の塔」建設趣意書●炭鉱犠牲者「復権の塔」建設協力会●一九七〇・二二

第1回炭坑犠牲者記念塔建設発起人会報告●一九七〇・二二

筑豊炭坑犠牲者記念塔建設協力会(仮称)試案●一九七〇・二二

復権の塔▼創刊号●炭坑犠牲者「復権の塔」建設協力会●一九七二・六

復権の塔▼第2号●炭坑犠牲者「復権の塔」建設協力会●一九七二・〇

復権の塔▼第3号●炭坑犠牲者「復権の塔」建設協力会●一九七二・二

復権の塔▼第4号●炭坑犠牲者「復権の塔」建設協力会●一九七二・六

復権の塔▼第5号●炭坑犠牲者「復権の塔」建設協力会●一九七三・三

筑豊炭坑犠牲者調査資料報告書●炭坑犠牲者復権の塔建設協力会●一九七五・四

〔歌詞 炭坑犠牲者の碑を建てませう〕●一九七〇

〔復権の塔写真〕●一九七五・二二

炭坑犠牲者「復権の塔」建設経緯書●一九八二・四

復権の塔を考える●部落解放鞍手郡共闘会議●一九八五・二二

復権の塔を考える(改訂版)●部落解放鞍手郡共闘会議●二〇〇四・一〇

被差別に対応する理念 そのたたき台として●服部団次郎●一九八七・二二

一粒の麦 御堂の鐘を叩け●服部団次郎/発行:編集 鶴尾計介・大西公幸●一九八九・七

一粒の麦 その2 種をまく人●発行:編集 鶴尾計介・大西公幸●一九九〇・七

第8巻 県福祉事務所

田川郡に於ける生活保護の状況―問題提起にかえて●福岡県田川福祉事務所●一九六八・一〇

田川郡における生活保護の状況―統計グラフと数値表●福岡県田川福祉事務所●一九七〇・二二

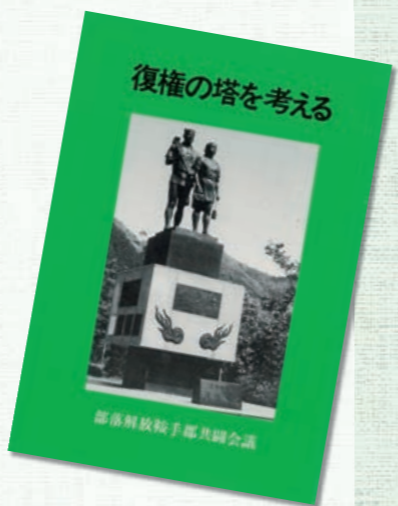
田川郡における福祉の概要●福岡県田川福祉事務所●一九七四・三

川筋▼創刊号●筑豊の生活保護●自治研・かほ●一九七二・一〇

川筋▼第2号●自治研・かほ●一九七二・二二

川筋▼第3号●その後の筑豊―産炭地域 福祉の実態●自治研・かほ川筋編集局●一九七二・四

川筋▼第4号●自治研・かほ●一九七三・二二



筑豊炭田地帯伝道計画についてお願い(仮称)筑豊基督者兄弟団●一九六三・一

福吉ふるさと便り●福吉青年団●一九六三・四

週刊福吉▼3号●筑豊基督者兄弟団●一九六三・四

週刊福吉▼5号●筑豊基督者兄弟団●一九六三・五

週刊福吉▼7号●筑豊基督者兄弟団●一九六三・五

週刊福吉▼9号●筑豊基督者兄弟団●一九六三・六

週刊福吉▼10号●筑豊基督者兄弟団●一九六三・六

週刊福吉▼12号●筑豊基督者兄弟団●一九六三・六

週刊福吉▼13号●筑豊基督者兄弟団●一九六三・六

週刊福吉▼14号●筑豊基督者兄弟団●一九六三・七

週刊福吉▼15号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六三・七

週刊福吉▼16号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六三・七

週刊福吉▼17号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六三・七

週刊福吉▼20号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六三・八

週刊福吉▼22号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六三・八

週刊福吉▼号外●筑豊キリスト者兄弟団●一九六三・九

週刊福吉▼25号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六三・九

週刊福吉▼28号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六三・一〇

週刊福吉▼30号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六三・一〇

週刊福吉▼38号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六三・二二

週刊福吉▼41号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・一

週刊福吉▼43号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・二

週刊福吉▼44号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・二

週刊福吉▼45号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・二

週刊福吉▼49号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・四

週刊福吉▼50号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・四

週刊福吉▼51号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・四

週刊福吉▼52号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・四

週刊福吉▼53号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・五

週刊福吉▼55号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・五

週刊福吉▼58号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・七

週刊福吉▼59号●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・七

週刊福吉▼No.60●筑豊キリスト者兄弟団●一九六四・八

夏期キャラバン予定表

1日の時間割

時刻	内容
7:30	起床
8:00	朝食
8:30	学習指導
9:00	作業
9:30	昼食
10:00	作業
10:30	休憩
11:00	作業
11:30	夕食
12:00	就寝

特別行事と午後7:00~9:00の活動内容

日付	内容	備考
7月29日(日)	地区交流	
7月30日(月)	交流会	
7月31日(火)	花火大会	
8月1日(水)	交流会	
8月2日(木)	中津土曜の話し合い	
8月3日(金)	遊水会	
8月4日(土)	交流会	
8月5日(日)	交流会	
8月6日(月)	交流会	
8月7日(火)	交流会	
8月8日(水)	交流会	
8月9日(木)	交流会	
8月10日(金)	交流会	
8月11日(土)	交流会	
8月12日(日)	交流会	

子供と筑豊

「子供と筑豊 さくぶん集より」『さきやま』夏期キャラバン報告集 1962年11月1日

さくぶん集より
— その生活から —

中二 岡 登美
喜しかった事
中二 半 子
炭坑がぶれてから
五年 井 隆
中二 里 子
中二 里 子
中二 里 子
中二 里 子

夏期キャラバン予定表 1962年7月

炭鉱犠牲者「復権の塔」建設趣意書

炭鉱犠牲者「復権の塔」建設協力会

竹佐小 岡案

炭鉱犠牲者「復権の塔」建設協力会

会 長 野 上 吉 郎
副 会 長 上 野 昌 哉
幹 事 阿 部 博 勝
幹 事 藤 本 文 夫
幹 事 林 野 田 耕 三
幹 事 松 村 定 雄
幹 事 近 藤 隆 夫

「復権の塔」建設趣意書

「存続の塔」に、かつては三百軒もあつた筑豊の炭坑は、いまは少くも閉山してしまつて、炭坑地としての炭坑は永久に忘れられようとしておりました。しかし、これまで炭坑労働者としてここに奮闘した方々の功績は、決して忘れ去るべきではありません。

過去を振り返り、日本の産業は石炭によつて今日の繁栄の土台を築きあげてきました。そしてこの石炭が、地下で採掘されたのは、その危険な地下労働の犠牲となつて、多くの方々が命を失つておりました。

また第二次大戦中、外国の人々で、この地の炭坑で働かされた方も多数にのぼつており、特に旧朝鮮の方々の犠牲にいたつては、私共としても、これを見逃しにすることが出来ません。

このように多くの犠牲者がありながら、これをこのままにして世を去るということと同じ労働者として、おぼろげなところであり、私達は有志の者達とばかりで、発起人会をつくり、産炭地としての炭坑を建設することも、人間の回復と合せて、諸外国に犠牲者に対するお詫の意をこめて一つの塔を建設することを思ひ、昭和四十五年一月建設協力会を組織して、具体的な運動を進めることとしたのであります。

協議の中で、塔名をいかにするかということが問題となり、いま、過去の「人間煉獄」に対して「人間煉獄」という言葉が大きく浮び出ているところから、「復権の塔」としてはどうかという提言がなされ、一同それと共鳴いたしまして「炭坑犠牲者復権の塔」と呼称することにいたしました。私達はこれまでも出来るだけ多くの炭坑労働者や遺族の方々にこの趣意を伝えてまいりました。

このため地産活動を続けてまいりましたが、どこでも大いなる共感と感動をもつて受け入れられ、既に筑豊の全郡町村に亘つて二万人を超える労働者や遺族の方達から建設寄付金や一人一個ずつの小石がとけられております。

別冊でも示しておりますように町長の御承認をえまして、近頃、知れ渡つてゐる千石公園という好適地に建設場所もまきり、具体的計画もすつかり出来まして、残るはこれを完成するための資金だけの問題となりましたが、私達はこれをただ労働者だけの力で建てられるのではなく、かつての炭坑経営の方々に広く一般の皆様方に御願いいたしまして御支援をあおぎ、実質的にこの趣意が確認され、そのおかげによる心暖まるような塔を建設したいと念願しておりました。

そしてこの塔を通して、たとえ地下の炭坑は埋りつくされても、炭坑地の中に人間性の尊重による明るく豊かな未来の開けゆくためのさやかな指標ともなればとの願いをこめてこの建設に努力をいたしております。

何卒、微かな私共の意のあるところ御了察され、その実現のために特別な御協力を御支援を賜りたく、伏して御願い申し上げます。

筑豊のこどもたちに文庫をおくろう!

筑豊こどもを守る会

おねがい
私たち、立教大学、明治学院大学、国際キリスト教大学、東京神学大学、東京女子大学の学生有志は、みなさまの御援助の下に、今夏、三週間にわたり、筑豊各地を訪れ、炭坑のこどもたちと生活を共にし、その実状をつまびらかに体験し、帰京後有志による「筑豊こどもを守る会」を組織いたしました。

このたびはこどもたちの経験から、ほろほろになつた本を何冊もくりかえし読まなければならぬ炭坑のこどもたちに本を送り現地に文庫をつくる運動を次の要領で計画いたしました。

どうかみなさんもこの運動に加わり、みなさんご自身の手で、炭坑の地にこどもたちのための文庫をつくってください。

けいかく
募集冊数 2000冊
本の種類 単行本、雑誌 (幼、小、中学生向)
その他 筑豊各地の「子ども会」
送り先 1ヶ所 200冊 10ヶ所
期 11月30日

筑豊こどもを守る会
連絡先 三鷹市幸丸707 東京神学大学内
TEL・ムセシノ (022) 3-9516

筑豊のこどもたちに文庫をおくろう! 1960年 育成会子供会合同秋期大運動会プログラム 1963年11月18日

戦後初期人身売買/子ども労働問題資料集成 全10巻《編集復刻版》

The Complete Collection of Materials on Problems of Trafficking/Child Labor in Early Postwar Japan

◆編・解説 藤野豊・石原剛志

敗戦後、GHQにより公娼が廃止され、児童の労働への明確な基準が決定したが、生活困窮が直接人身売買に結びつく日本社会の土壌は容易に変化しなかつた。

高度経済成長前後、日本国憲法のもと奴隷的労働を強いられた女性や子どもの実態を明らかにする貴重な歴史的資料として復刻する。

●体裁 A5判(第1巻〜第6巻)
A4判(第7巻〜第10巻)
上製/総約4,000ページ
●揃定価 196,000円+税(税込215,600円)
《全3回配本》

●推薦 逸見勝亮・角田由紀子・岩田正美・増山均

第1回配本 2013年12月刊 本体64,000円+税 ISBN978-4-905421-41-2(税込70,400円)
第2回配本 2014年6月刊 本体57,000円+税 ISBN978-4-905421-46-7(税込62,700円)
第3回配本 2014年12月刊 本体75,000円+税 ISBN978-4-905421-50-4(税込82,500円)

史料・岡山孤児院 全8巻《編集復刻版》

The Complete Collection of Reprinted Documents of Okayama Orphanage

◆編・解説 菊池義昭・細井勇(機関紙編)
三上邦彦・元村智明(画像・映像編)

岡山孤児院は、1887年、基督教を信仰する医学生・石井十次が、貧窮する女性から子どもを預かったことから始まった。近代における草分けの児童養護事業である。すべての困窮する子どもたちを引き受け、育てることをこころざした、岡山孤児院という大事業の足跡を辿る。

●体裁 A4判/上製/総1,725ページ
(映像はDVD)
●揃定価 125,000円+税
(税込137,500円) (機関誌編)
60,000円+税
(税込66,000円) (画像・映像編)

●推薦 江草安彦・室田保夫・野々村淑子

【機関誌編】
第1回配本 2014年6月刊 本体50,000円+税 ISBN978-4-905421-57-3(税込55,000円)
第2回配本 2014年12月刊 本体75,000円+税 ISBN978-4-905421-60-3(税込82,500円)

【画像・映像編】
全1回配本 2015年6月刊 本体60,000円+税 ISBN978-4-905421-64-1(税込66,000円)

監獄のなかの子どもたち

児童福祉史としての特別幼年監、感化教育、そして「携帯乳児」

◆著 倉持史朗

犯罪少年・非行少年への処遇は、処罰として行うのか、教育をもって対するのか——というきわめて今日的な問題に、特別幼年監、感化教育によって一世紀以上に前に取り組んだ先駆者たちの挑戦に学ぶための意欲作!

●体裁 A5判/上製/264ページ
●定価 4,200円+税(税込4,620円)
2016年12月刊 ISBN978-4-86617-022-0

子どもの貧困と教師

東京市万年小学校をめぐる苦悩と葛藤

◆著 別役厚子

作家・添田知道が遺した『小説教育者』執筆のための「取材ノート」の翻刻とその解題を通して、その主な舞台であった万年尋常小学校と校長 坂本龍之輔の活動の実態を正面から探った、別役厚子の遺稿集!

●体裁 A5判/上製/408ページ
●定価 3,800円+税(税込4,180円)
2019年2月刊 ISBN978-4-86617-076-3

「黒い羽根」の戦後史

炭鉱合理化政策と失業問題

◆著 藤野豊

合理化政策とエネルギー革命によって失業し、悲惨な生活を強いられた炭鉱労働者とその家族に対して、世論を動かし「炭鉱離職者臨時措置法」をとまかむも成立させるまでの15年間を踏査。

●体裁 A5判/上製/360ページ
●定価 2,800円+税(税込3,080円)
2019年9月刊 ISBN978-4-86617-079-4

戦後初期 人身売買 子ども労働 問題資料集成 全10巻

日本国憲法下で最初に「人身売買」「子ども労働」を規定した300頁を復刻!

ISBN978-4-905421-50-4 (税込82,500円)

岡山孤児院新報 写真・映像資料

岡山孤児院

ISBN978-4-905421-64-1 (税込66,000円)

「黒い羽根」の戦後史

ISBN978-4-86617-079-4

「筑豊の子供を守る会」関係資料集成

全8巻

編集復刻版

●編——『筑豊の子供を守る会』関係資料集成』編集委員会

●解説——細井勇（福岡県立大学教授）

鬼塚香（福岡県立大学准教授）

●体裁——B5判・上製・約3,100ページ

●揃定価——160,000円＋税（税込176,000円）（全2回配本）

●推薦——岩田正美（日本女子大学名誉教授）

大友信勝（聖隷クリストファー大学教授）

木原活信（同志社大学教授）

第1回配本

2022年6月刊 本体80,000円＋税（税込88,000円）
ISBN978-4-86617-179-1

第1巻 筑豊の子供を守る会Ⅰ

第2巻 筑豊の子供を守る会Ⅱ

第3巻 筑豊の子供を守る会Ⅲ

第4巻 筑豊の子供を守る会Ⅳ

2022年11月刊 本体80,000円＋税（税込88,000円）
ISBN978-4-86617-184-5

第5巻 福吉炭住での活動

第6巻 鞍手地区での活動／筑豊協力伝道奉仕会／復権の塔Ⅰ

第7巻 復権の塔Ⅱ

第8巻 県福祉事務所

第2回配本

近刊のご案内

〔編集復刻版〕

炭鉱失業／貧困家庭問題

資料集成 全6巻（仮題・予定）

藤野豊 ● 編

紙芝居に見入る子どもたち。一九六一年頃



*表示価格はすべて税別。



六花出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-28 電話 03-3293-8787 FAX 03-3293-8788 <https://rikka-press.jp>

2022・05